

開かれた大学は交流の場を増やし、無限の可能性を開拓する 深まる社会貢献・男女共同参画への取り組み

岩手・宮城内陸地震に関する全学的取り組み

2008年6月14日午前8時43分頃、岩手県内陸南部を震源とする M7.2 の「岩手・宮城内陸地震」が発生した。地震発生の翌15日、日本地震工学会では土木学会・地盤工学会と協力し、工学研究科の風間基樹教授を団長に合同調査団を編成、現地に派遣した。また、理学研究科地震・噴火予知研究観測センターは、内陸地震の発生機構や震源域の地殻構造を調査するため、全国の大学・研究所等による合同観測グループの代表として、稠密な地震観測とGPS観測の臨時観測網を設置した。

2008年6月20日、高等教育開発推進センターの共催による日本コミュニティ心理学会では、岩手・宮城内陸地震の復興、およびコミュニティの再生についての特別講演が行われた。さらに、地震発生から1ヶ月後の2008年7月14日には、さまざまな分野の研究者が一同に会してシンポジウムが開催されるなど、全学的な取り組みが地震発生直後から各方面で活発に繰り上げられた。

一方、本学の主に文系研究者が編者となり、人文社会系の視点でアプローチする「シリーズ 防災を考える」が



理学研究科が代表となる合同観測グループによる、GPS観測の臨時観測装置設置の様子。人物の前にある円盤状の装置がGPS受信アンテナ、後方の土手斜面の四角形の装置は電源を供給するための太陽電池パネルである。この太陽電池により、地震災害で停電した場所でもデータを取得することが可能となる。



2008年7月14日のシンポジウム(工学研究科附属災害制御研究センター主催)では、地震発生メカニズム、地滑り災害の発生、被害の全貌、減災に向けた課題・教訓など、さまざまな問題について報告・議論した。



「シリーズ 防災を考える」全6巻
(2009年7月現在、2巻まで発行)
出版：東信堂03-3818-5521

2009年1月から刊行されており、従来にはない新たな着眼点が注目を集めている。また、新聞(河北新報)でも、本学の教員陣らによる「防災講座」が連載される(2009年4月～6月)など、防災の意識向上にも努めている。

米国フォード自動車製T型(1926年製)及びA型(1931年製)クラシックカー、また本学の創立100周年を記念し寄贈されたトヨタ自動車製F1レーシングエンジン等を収めた「自動車の過去・未来館」が2008年11月1日にオープンした。施設は工学研究科敷地内にあり、ガラス張りの外観がひととき目を引く。入館無料で一般に公開され、本学の新たな名所としても人気を集めている。

「自動車の過去・未来館」開所式



Topics! “東北みらいプロジェクト”第3回東北大学仙台セミナー 「そらからの贈りもの～宇宙航空の最先端を知る」開催

2008年12月13日に東北大学・JAXA・河北新報社の主催により、川内萩ホールで開催されたセミナーには、約800人の市民らが集い、宇宙の謎に迫る研究や次世代の航空機開発について熱心に耳を傾けた。JAXAの的川泰宣技術参事による基調講演、また日本人宇宙飛行士山崎直子氏のビデオレター等も紹介された。また、小中学生を対象に、宇宙をもっと身近に感じてもらう「宇宙の学校」が開かれ、参加者は宇宙航空の「いま」を知ることができた。



宇宙の学校

小中高生のための 「ひらめき☆ときめきサイエンス」

現在、各分野で活躍している研究者の最先端の研究成果を、小学5・6年生・中学生・高校生が見て・聞いて・触れることで、学術と日常生活の関わり、科学(学術)の意味を理解してもらおうプログラム。全国各地の大学で様々なテーマにより企画・実施され、本学においても2008年度は2つのプログラムが開催された。

■2008年7月27日

インタビューでさぐるこころの世界

～プロ選手、プロ音楽家に聞いてみよう～(写真①)

教育情報学研究部 北村 勝朗 教授

オリンピック選手や世界的に有名な音楽演奏家に、子ども達が実際にインタビューを行い、自らの潜在的な才能を開花させるためのヒントを見つけさせた。



①



②

■2008年8月2日・9日(共に同内容)

大揺れの前に安全確保～地震対策最前線(写真②)

工学研究科附属災害制御研究センター 源栄 正人 教授
三陸沿岸部の公共施設に設けられた地震計より、東北大学に瞬時に伝送される波形情報と緊急地震速報を組み合わせ、今後発生が予想される宮城県沖地震を高精度に予測する技術などについて分かりやすく紹介した。

東北大学第7回男女共同参画シンポジウム

開学時に「門戸開放」を掲げ、国内で初めて女子の入学を認めた東北大学では2001年に「男女共同参画委員会」が設置され、翌2002年からはシンポジウムが毎年開催され、男女共同参画が積極的に推進されている。

2008年度も11月22日、仙台国際センターにて第7回シンポジウムを開催。第6回沢柳賞(研究部門)が「大学の特色を生かした付属保育施設作りのためのネットワーク構築」を行った東北大学川内けやき保育園保護者会へ、また、同賞(プロジェクト部門特別賞)が「モンゴルにおける女性への暴力拡大に関する社会人類学的分析」により環境科学研究科後期博士課程のトゥルムフ・オドントヤ氏へそれぞれ授与された。受賞講演は、研究部門受賞者の川内けやき保育園保護



パネルディスカッション

者会のほか、第4回沢柳賞プロジェクト部門を受賞した東京大学教育学研究科准教授(受賞時：本学教育学研究科助教授)の橋本鉦氏が「女性研究者のキャリア展開とその制度的環境」について行った。

また、基調講演は駐日ノルウェー王国大使オーゲ・B・グルットレ氏が「ノルウェーの男女共同参画は今」と題して行い、東北大学金属材料研究所教授・米永一朗氏らによるパネルディスカッションでは、大学における男女共同参画の現状について活発な意見交換が行われた。

Topics!

大学別特許公開件数で3年連続日本一を達成

特許庁の資料「2008年の国内大学別特許公開件数」等によると、東北大学は2006年以降連続して国内一に輝いている。これは本学における研究水準の高さを示すのみならず、その成果を社会に還元する意欲が強いことを表している。「研究第一」と「実学尊重」を学是とする本学ならではの快挙と言える。

1位●東北大学 326件

2位●東京大学 280件

3位●大阪大学 273件

4位●東京工業大学 231件

5位●京都大学 188件